2024_1101「サルの毛づくろい（動画）」日々の理科 3739 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

「ニホンザル」*Macaca fuscata* は日本の野生動物では、最も人類（ヒト）に近い生物です。「近い」というのは、同じ「霊長目（れいちょうもく）」 *Primates* に属するという意味です。霊長目は脊椎動物の中でも「サルの仲間」という分類群ですが、霊長目の中からヒトを除いた種が「サル」とされています。もちろんニホンザルもサルです。

高崎市の市街地からナシ農家が多い榛名地区を過ぎて、旧倉渕村の権田交差点を左折します。ここからは群馬県道 54 号線で、この道は軽井沢を通らずに直接北軽井沢に抜けられる山道です。川浦地区の集落を過ぎて、民家が見えなくなると、かなりの高確率でニホンザルの群れに出会えます。「サルに餌を与えないでください」という看板もあります。こういう看板があるということは、サルが観光客の与える食べ物に依存しつつあることを意味しています。

この日に見かけたサルの群れは７～８匹で、恐らく親が１匹であとは子どもか若い個体でした。ちょうど毛づくろいに夢中で、かなりそばに車を停めても、近寄りも逃げもしませんでした。里にも近い山なので、ヒトの存在にも慣れているのでしょう。ゆっくり観察すると、やはり表情や動きはヒトに似ているところがあるなぁ、と思いました。

（2024 年 10 月中旬／群馬県高崎市倉渕川浦）